令和３年３月５日

令和２年度練馬区立豊玉中学校　学校評価報告書

練馬区立豊玉中学校
校長　　江川　誠志　公印

１　自己評価結果

（１）　概要

生徒、保護者、地域関係者、教職員のアンケート調査、平成２年度学校経営計画の具体的方策をよりどころとした教育調査を基に、年度末に自己評価を行った。この結果をまとめると以下のようになった。

ア　今年度の成果

「行事に取り組んだ達成感」や「実体験に基づいた命の授業」、「学力向上プロジェクトでの少人数グループ学習」、「防災や安全についての正しい知識」、「規範意識や基本的な生活習慣の確率」、「授業規律の徹底とリレーションづくり」、「校内に目を向けた学校のための活動」等で成果が見られた。

イ　次年度への課題

「家庭学習の奨励と、自学自習の習慣の習得」や「講話を工夫し、人生観や生き方を深めさせる」、「プレゼンテーション能力の伸長」、「夢や目標をもち、困難を乗り越えていくための支援」、「ＳＮＳ等の正しい知識」等に課題がある。

ウ　次年度に向けた改善点

豊中スタンダード（豊玉中学校での学びの基本スタイル）を確立するために、４人組グループ学習を根付かせ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な主体的に学習に取り組む態度を育む。また、新学習指導要領のカリキュラム・マネジメントの内容を踏まえ、夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要な力を育むために、ＳＧＤｓを活用してキャリア教育の充実を図る。

（２）　根拠となる資料

令和２年度　豊玉中学校の教育調査（アンケート）結果

（生徒・保護者・教職員）

指標　【とてもそう思う　５点】
　　【どちらかと言えばそう思う　４点】　（肯定的評価）
　　【どちらかと言えばそう思わない　２点】
　　【そう思わない　１点】　（否定的評価）
　　【わからない　０点】　（不明）

評価項目	生　徒	保護者	教職員
１　授業規律の徹底とリレーションづくりにより、話し合い活動のための土壌をつくる。	４．２	３．８	４．４
自己評価についての評価結果および主な意見			
教師が協力すること、仲良くすることの目的・価値の共通認識を図り、ピアサポートプログラムを活用して、より良い人間関係づくりの価値に気付かせることができた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
各学年のリレーションづくりの取組を、各種便りや学校ホームページ等で発信する。また、保護者会等で、実際にリレーションづくりや対話活動を体験してもらう。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
２　学力向上プロジェクトの拡充・展開期と位置付け、４人組を軸に少人数グループ学習等を工夫する。	４．５	４．２	４．８
自己評価についての評価結果および主な意見			
生徒の意識に、「対話的な学びには、リレーションづくりが大切」だと根付いてきた。一例として、記述式のアンケート結果から仲間との対話が増えたことで、学習へのモチベーションが高まったことを読み取ることができた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
主体的で対話的な学びを深い学びにつなげるために、思考力や表現力の向上につながる取組課題を単元で設定し、４人組チームワーク学習を中心に、様々な方法で表現する機会を多く設ける。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
３　課題解決を中心にした授業改善を通して、自己表現力、プレゼンテーション能力の伸長を図る。	３．８	３．５	４．１
自己評価についての評価結果および主な意見			
４人組学習活動の推進で、自分の意見を表現する機会は多くなった。しかし、多くの生徒が自分の意見に自信がもてないため、説得力のある発表ができていない。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
生徒に根拠を明確にして自分の考えを構築するトレーニングを積ませ、全員が自信をもって自分の意見を発表できるようにする。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
４　各教科で家庭学習を奨励し、自学自習の習慣を身に付けさせる。	３．２	２．８	２．５
自己評価についての評価結果および主な意見			
授業の振り返りにより復習を行う生徒は多いが、次の授業の準備のための学びをしてくる生徒は少なかった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
調べたくなるような課題や、調べないと解決にたどり着けない課題等を事前に示し、身に付ける力や学習内容の見通しをもたせるようにする。さらに、事前に準備をしてきたことが評価されるような学習活動を工夫したり、評価方法や評価材料を提示したりする。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
５　人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きる生徒を育てる。	３．８	３．６	４．４
自己評価についての評価結果および主な意見			
リレーションづくりに向けての、ピア・サポートプログラムが最も効果的なのは、入学直後と言われている通り、１学年で最も良い効果が認められた。（１学年評価４．４）また、生徒アンケート結果で、人の意見を聞くときその人の考えや気持ちを受け止めようとした生徒の割合が増加した。（７月８６％　→　１２月９８％）			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
ピア・サポートを全校体制で計画的に行い、ピア・サポーター（有志のボランティア）を募る。さらに「道徳の時間」の充実を図り、多様な価値観を認め合えるような対話的な授業を展開する。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
６　夢や目標をもち、困難を乗り越え、幸福な人生の創	３．６	３．８	４．０

り手となっていけるように支援を行う。			
自己評価についての評価結果および主な意見			
１学年では夢手帳とキャリアパスポートを活用し、目標をもって生活する習慣を身に付けることができた。（１学年評価４．０）３学年は、生徒が突然始まったと感じてしまうキャリア・パスポートを十分に活用することはできなかった。（３学年評価２．８）			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
全ての学年で夢手帳を活用する。さらに、「夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要な力を育む教育」のプログラムを作成し、キャリアパスポートを活用しながら、自分のミッションや生き方について考え続けられるような取組を継続する。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
7　心の教育を活性化するために外部から講師を招き、実体験に基づいた「命の授業」を実施する。	４．５	４．４	４．７
自己評価についての評価結果および主な意見			
コロナ禍のため、保護者の参加は非常に少なかったにもかかわらず、保護者の評価が高かったのは、話を聞いて心に残った生徒が保護者へ伝えていると考えられる。ほとんどの生徒が真剣に受け止め、感謝の手紙を書いていた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
実際に戦争を体験された方々が、自分たちのことだけでなく、世界の平和の大切さについて語っていただく機会は、生徒だけでなく、我々教員にとっても貴重な機会である。毎年継続して実施する。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
8　規範意識や基本的な生活習慣を確立させる。（正しい価値観や自立に向けた働きかけ）	４．２	４．１	４．８
自己評価についての評価結果および主な意見			
ピア・サポートプログラムの活用により、人間関係能力が向上することにより、互いに声をかけて主体的で望ましい生活を送れるようになってきた。特に、入学当初から取り組めた１学年生徒の評価は、４．５以上であった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
全ての教育活動を通して、社会生活の基本的なきまりや規範意識を基に、適切に判断し行動しようとする態度を育成する。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
9　薬物、防犯、防災、交通安全についての正しい知識を身に付けさせる。	４．４	４．１	４．７
自己評価についての評価結果および主な意見			
「薬物乱用防止教室」や防犯、防災、交通安全等の指導を、年間を通して計画的に行っているため、生徒、保護者、教職員ともに高い評価が得られた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
次年度も引き続き「薬物乱用防止教室」や「情報モラル教室」等を実施したり、安全指導や避難訓練を実施することで、薬物、情報、防犯、交通安全等についての正しい知識を身に付けさせる。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
10　インターネットやＳＮＳについての正しい知識を身に付けさせる。	３．８	３．７	４．１
自己評価についての評価結果および主な意見			

昨年度より件数は減ったとはいえ、年度当初はＳＮＳによる小さなトラブルがあった。学級のリレーションづくりが進むと次第に減少していき、１・２月は発生件数が０件になった。
自己評価を踏まえた次年度の改善策
予防的生活指導の視点で、日常からインターネットやＳＮＳの活用方法について、社会での出来事等を踏まえながら語る場面を設ける。また、ピア・サポートの一環として、タブレット型ＰＣ等を活用した非対面での関係づくりについても学習を行う。

評価項目	生　徒	保護者	教職員
11　生活アンケートを毎月実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	４．１	３．６	４．７
自己評価についての評価結果および主な意見			
生活アンケートの相談件数も減少し、相談内容も学習についてなど、個人的なものだけになった。ふれあい調査を含め、いじめ件数は０件であった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
「学校いじめ防止基本方針」を作成し、学校ホームページで公表するとともに、保護者を巻き込んで共に考える機会を設ける。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
12　望ましい勤労観や職業観を育む、目的を踏まえた取組内容を工夫する。	３．７	３．８	４．２
自己評価についての評価結果および主な意見			
特別活動や総合的な学習の時間の学習活動を通して、働くことの意義や尊さを教えることができたため、職業学習を行えた１・２学年の生徒の評価は４．０以上であった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
「豊中ハローワーク」や「職場体験学習」等を、活動で終わらせず、目的を明確にして探究学習となるような授業設計を行う。保護者向けに、職業探究の学びの成果を、タブレット型ＰＣを活用して積極的に公表する。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
13　全校集会・朝礼・学年集会の講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる。	３．８	３．４	３．６
自己評価についての評価結果および主な意見			
コロナ禍の中のため、学年集会や学年朝礼の機会が減少し、 教師が講話する機会が少なくなった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
学年朝礼や学年集会では、毎回必ず教師による講話を行い、その内容について考えたことを夢手帳に書かせるようにする。また、保護者へ向けて・朝礼等での講話の内容を、各種便り等を活用して積極的に発信する。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
14　学校経営計画に基づき、温かい雰囲気の中で生徒が安心して生活できる学校をつくる。	３．９	３．６	４．４
自己評価についての評価結果および主な意見			
ピア・サポートプログラムの活用により、学級のリレーションづくりを強化することができた。学校評議員の授業参観では、どのクラスも温かい雰囲気の中で学習活動が展開されていると評価が高かった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			

「相手を理解し、理解される」をスローガンに、まずは生徒同士の思いや気持ちを理解させることを共通実践する。また、「話し合いのルール」の徹底やリレーションづくりを継続的に行い、お互いを受け入れる雰囲気づくりを整える。

評価項目	生　徒	保護者	教職員
15　小学校や地域との連携が行えないコロナ禍の中で、校内に目を向け学校のために活動する。	４．２	４．２	４．１
自己評価についての評価結果および主な意見			
コロナ禍の中でスタートした新生徒会は、主体的に活動し、特に１年生は学年の中での役割をしっかりと果たした。美術部では、昨年度の職場体験でお世話になった福祉施設等に、１００通のクリスマスカードを贈り施設の方々から感謝の手紙が寄せられた。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
引き続き、生徒のボランティア・リーダーを中心にコロナ禍の中でもできることを主体的に考えさせ、活動場面を拡充していく。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
16　コロナ禍の中、限られた条件の中で、行事に真剣に取り組み達成感を得る。	４．５	４．４	４．８
自己評価についての評価結果および主な意見			
コロナ禍の中でできる行事を考えた。規模を縮小して実施した体育発表会では、全ての生徒が真剣に取り組み、保護者からも好評であった。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
コロナ禍の中でもできることを考え、地域の方の協力を得ながら実施可能なことを厳選して行う。			

評価項目	生　徒	保護者	教職員
17　生徒の健康上の課題や配慮事項を掌握し、情報の共有化と全教職員との共通理解を図る。	４．０	３．８	４．６
自己評価についての評価結果および主な意見			
生徒は、健康に過ごすことの大切さや、体力を向上させる方法について概ね身に付けている。特に１学年生徒の評価が高い。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
保健だよりを活用する。配布するだけではなく、学校ホームページに載せて生徒や保護者が閲覧できるようにする。			

２　学校関係者評価の結果

（１）総括

①成果…　学級のリレーションづくりが進み、４人組学習活動で、生徒が主体的に活動することができた。学校評議員の授業参観を通して、クラスの温かい雰囲気を感じてもらうことができた。

②課題…　個に応じた指導の充実を課題と捉えている。授業で学習につまずきを感じている生徒に、学習が主体的にできるように手だてを考え、実施していく必要がある。

③改善策…単元の見通しをもたせ、計画的に学習できるようにするために、単元ごとにオリエンテーションを確実に行う。また、毎時間の授業で生徒が身に付ける力を明確にし、適切に評価することで学習意欲を引き出す。さらに、次の授業で学習する内容と身に付ける力を伝えることで、家庭で何を学習してくれば次の授業に役立つかを明確にする。

３　学校評価結果の公表等

・学校ホームページで、１２月の教育調査の結果を公表
・保護者・地域に向けて、学校だより（２月１２日特別号）で調査結果を公表
・３月２３日の保護者会で説明する予定

４　次年度の学校改善へ向けた校長の見解

（１）課題と改善策

本校は、「自学自習の習慣の習得」や「人生観や生き方を学ぶこと」、「プレゼンテーション能力の伸長」、「夢や目標をもち困難を乗り越えていくための支援」、「ＳＮＳ等の正しい知識」等に課題があります。これらすべての課題を解決し、生徒や保護者・地域の方々から信頼される学校にするために、生徒に「学ぶ意味」に気付かせ、社会的スキルを身に付けさせて「学びの主体者」として成長させます。

（２）「豊中プラン２０２１」の確実な実施

次の５つのプランを確実に実行することで、学校改善を確実に図っていきます。

①学力向上プロジェクトの確立・検証

一昨年度立ち上げた学力向上プロジェクトが３年目を迎える。３年目の今年はプロジェクトの確立・検証期と位置づけ、豊中スタンダード（豊玉中学校での学びの基本スタイル）の一応の確立と、数値による根拠を基に検証を行う。４人組グループ学習を根付かせ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度を育む。また、練馬区教育委員会教育課題研究指定校としての発表に向けて、学力向上プロジェクトの確立を図る。

②キャリア教育の改善

新学習指導要領のカリキュラム・マネジメントの内容を踏まえ、夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要な力を育むために、ＳＤＧｓ（持続可能な１７の開発目標）を活用してキャリア教育の充実を図る。また、本校の研究テーマである“学びの主体者”を育成するために、プロジェクト学習（ビジョン「何のために」と、ゴール「何をやり遂げたいのか」を明確にし、ゴールへと向かう学習）を推進していく。現在１学年で取り組んでいる夢手帳も、全学年での取組へと広げていく。

③学校行事で身に付ける力の見直し

令和２年度は、コロナ対応により内容の見直しが進まなかったため、“新たな日常”を踏まえた学校行事へと見直しを図る。検討委員会をプロジェクト会議に位置づけて、学校行事をとおして中学校３年間で身に付けさせたい力とは何かを明確にして、適切な時期やふさわしい内容に転換していく。

④地域ボランティア活動の拡充

本校では、地域ボランティア活動が定着し、地域の方から大きな期待と高い評価を得ている。令和２年度には、ボランティアに参加を希望する生徒を対象に新たな年間登録制度（通称ボラバンク）を立ち上げた。令和３年度は地域に貢献できる生徒を育成するために、ボランティア・リーダーのアイデアを基に、生徒が主体的に活動する場面をさらに開発し規模の充実を図っていく。

⑤「命の授業」の継続実施（元年度から取り組み始めた「命の授業」を継続する）

過去から学ぶことを通して命の重みを実感させるために、道徳授業地区公開講座に講師を招聘し、一昨年度から取り組み始めた「命の授業」を継続実施する。今年度は、敗戦後のシベリア抑留の体験者を招き、実体験の話から「平和の尊さ」や「命の尊厳」について考えを深めさせる。